



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

主の昇天 A年(2023年5月21日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：使徒言行録 1章1—11節

第二朗読：エフェソの信徒への手紙 1章17—23節

福音朗読：マタイによる福音書 28章16—20節

イエスは近づき…

今日の朗読箇所^{かしよ こうぞう}の構造^{こうぞう}を見てみると、以下のようになるでしょう。

- A イエスに会い、ひれ伏^ふした(28:17)
- B 天と地の一切^{いっさい}の権能^{けんのう}を授^{さづ}かっている(28:18)
- C すべての民^{たみ}をわたしの弟子^{でし}にしなさい(28:19)
- B' 命^{めい}じておいたことをすべて守るように教えなさい(28:20)
- A' いつもあなたがたと共にいる(28:20)

19節と20節にある「行って」、「弟子にしなさい」、「洗礼を授け」、「教えなさい」の四つの動詞に注目してください。命令法で書かれているのは「弟子にしなさい」だけです。他は分詞の形となります。それで、「行く」のは「弟子にする」ためであり、「洗礼を授ける」と「教える」は「弟子にする」ことの^{ぐたいてき}具体的な内容と考えたらよいでしょう。

『マタイによる福音書』では、「弟子作り」がイエスさまの活動全体^{いりど}を彩ります。ガリラヤから始まった人々を弟子にするイエスさまの活動は(4章18節)、イエスさまの復活後は弟子たちに^{ひつ}引き継がれていきます。そしてすべての民が弟子となります。

イエスは近づき…

『マタイによる福音書』では、多くの場合に人がイエスさまに向かって畏敬の念を抱いて「近づく」ことはありますが、今日の福音朗読ではイエスさまご自身が弟子たちに「近づき」ます。「イエスは弟子たちに近づき、次のように仰せになった『わたしには天においても地においても、すべての権能が与えられている』」(28章18節 フランシスコ会訳)。

実は、イエスさまが近寄ってくる場面はもう一つあります。それは、イエスの変容の箇所です。「イエスは近づいて、彼らに触れて仰せになった、『起きなさい。恐れることはない』」(17章7節)。

どちらも、弟子たちが恐れている場面で、イエスさまは自ら近づいてきます。そして、イエスさまは弟子たちを力づけ、励まして「人の子が死者の中から復活するまでは、今、見たことを誰にも話してはならない」(17章9節)と命じます。一方で、今日の福音朗読では、近づいてきたイエスさまが「父と子と聖霊の名に入れる洗礼を授け、……教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなた方とともにいる」(28章19-20節)と命じ、約束します。

高い山で姿が変わったイエスさまを見て、恐れている弟子たちにイエスさまは近づいてくれます。そして、復活なさったイエスさまを目のあたりにして恐れと疑いが生じている弟子たちの方へと、イエスさまは近づいてくれます。こういうところにイエスさまの優しさを見ないわけにはいきません。そして、宣教の使命が与えられているのは偶然の一致なのでしょうか？ すなわち、変容の場面の後で弟子たちは、イエスさまと共に神の国を宣べ伝えますし、今日の箇所では山を降りた弟子たちは、「命じたことを、すべて守るように」(20節)と宣教し始めます。

